

6.4 教育成果のあり方

進捗状況報告

学生の学習意欲の向上と課外活動の奨励を目的として、2005年度から「SPS AWARD」という学部独自の顕彰制度を設けた。これは課外活動において顕著な活躍をし、大きな成果を上げた学生に対して与えられる、「Best Contribution」と、各学年の成績上位者10名に対して与えられる「Top 10」との二つの賞からなっている。

学内第三者評価

成績上位者と課外活動優秀者を対象とした顕彰制度は評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・学部独自の顕彰制度は優れた取組である。
 - ・一般にGPAは、次の2点で利用されることが多いようである。
 - (1) 履修登録しても受験せず、単位を取得しなかった科目の成績を「不可」と同じにみなすことによって、学生が過剰な登録をしなくなる。またその結果、クラスサイズが適正化される。
 - (2) GPAの成績がふるわない学生に対し、早めに学修や生活面の指導をすることにより、留年や退学にいたる事態を予防しうる。
- 学生のGPAに対する認識が低いようであれば、進級の要件にすることで(1)の効果が出てくるのではないかと。
- 北海道大学などでは、GPAを活用することにより、学生の適正履修が進み、理系学部の実験実習科目の予習が十分におこなわれるようになったとか、図書館の利用が格段に多くなった、などの好結果が得られているようだ。